

# 令和5年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書【2年目】

報告日 7年 11月 27日

P T A名		静岡県立藤枝特別支援学校 P T A				
学校	対 象	<input type="checkbox"/> 視覚障害	<input type="checkbox"/> 聴覚障害	<input checked="" type="checkbox"/> 知的障害	<input checked="" type="checkbox"/> 肢体不自由	<input type="checkbox"/> 病弱
	設 置 部	<input type="checkbox"/> 幼稚部	<input checked="" type="checkbox"/> 小学部	<input checked="" type="checkbox"/> 中学部	<input checked="" type="checkbox"/> 高等部	
	全校児童・生徒数	332人				

## 1. 使用状況

寄贈物品名	電子黒板（ディスプレイ型）
使用学年及び人数	小学部児童117人、中学部生徒70人、高等部生徒95人
使用頻度	毎日1回以上
使用状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽や図工などで、児童生徒のイメージを膨らめる際に映像を投影。</li> <li>・交流活動や行事などで式次第等を投影。</li> <li>・職場実習報告会等で生徒が作成したプレゼンテーション資料を投影。</li> <li>・薬学講座など外部講師を招聘した授業においてプレゼンテーション資料を投影。</li> </ul>
物品の使用による変化や効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誕生会などの会活動で活動内容や次第を電子黒板に教材を投影することで、注意を持続することが難しい児童生徒が、一斉に画面に注目でき、どの児童も取り残すことなく学習に参加できた。</li> <li>・電子黒板に大きく投影することで、細部の観察が容易になり、児童生徒の主体的な学びにつながった。</li> <li>・職場実習報告会で児童生徒自身が作成したプレゼンテーション資料を投影することで、児童生徒の発表が他児童生徒に伝わりやすく、発表する児童生徒の達成感につながるとともに協同的な学びの機会を作ることができた。</li> </ul>
今後の活用の見通しや課題	電子黒板を用いることで、児童生徒の理解が深まるとともに、自身の考えを表現することにつながっている。今後は更に活用を進め、児童生徒自身が機器を操作する技術を身に付けていくことができるよう指導をしていく。授業におけるICT活用を進めるにあたり、電子黒板の活用場面は増加している。本校では、児童生徒数に対し、電子黒板の台数が不足しており、使用する際には学年間の調整が必要となっている。
その他希望や所感など	授業におけるICT活用を進めるにあたり、電子黒板の活用場面は増加している。児童生徒数に対し、電子黒板の台数が不足しており、使用する際には学年間の調整が必要となっているため、台数を増やしていきたい。

## 2. 活用の様子

写真 誕生会の次第を見ながら参加しているところ

